

世帯と人口

(10月1日現在)		
世帯	43,483	(+ 33)
人口	117,864人	(+ 57)
男	60,414人	(+ 24)
女	57,450人	(+ 33)

この数値は平成7年国勢調査人口を基に異動人口を加算し集計したものです

広報えびな

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

*この広報は再生紙を使用しています。

▶えびな環境市民会議が植えたケナフを見る松下さん



21世紀へ前進する海老名②②

地球温暖化の救世主

最近「ケナフ」という植物の名をよく耳にします。「ケナフ」は、木材に代わる新しい紙の資源としての利用が期待され、地球環境保全、特に森林の保護に効果があることから注目されています。市内でも「ケナフ」を使った取り組みが行われています。

環境にやさしい植物「ケナフ」

ケナフは、アオイ科の一年草の植物で、成熟すれば高さが3〜4メートルにもなります。幹も太くなり木のように見えますが、実はアフリカ産の草の一種。5〜6月に種子をまくと、夏ごろから急に成長し、秋にハイビスカスに似た10センチ程度の花が咲き、11〜12月ごろに刈り取ります。ケナフの皮と芯は紙の原料に、皮繊維は衣類に、木質部は燃料に、また種子からは油が取れるなど、さまざまのことに利用することができます。

ケナフの特徴は、空気中の二酸化炭素の吸収量が大きいため、二酸化炭素濃度の高まりによる地球温暖化の防止ができます。また、水の汚染原因の一つである、土中の窒素やリンを吸収するので、水の浄化につながるとも言われています。

中央農業高校3年生の松下梓さんは、同校の青木博久先生の指導で、ケナフを使った研究を行っています。その内容は、課題研究で「ケナフの水質浄化」、環境科学部での部活動で「ケナフの芯を使ってキノコの栽培」。水質浄化は、週4時間の授業中に行い、ケナフを水耕栽培し水質濃度を変え、窒素やリンの吸収の違いを調査しています。「将来的に川岸に植えて水をきれいにするこへの利用ができるといいですね」と松下さん。キノコの栽培は、ケナフの芯と米ぬかを3対1に混ぜ栽培するもので、ケナフの養分としての働きを調べます。最近の健康ブームで、キノコが病気になるための免疫力を高めることに注目されていることから、ケナフを使って栽培に応用できないかを研究しています。

市民・事業者・行政が一体となって環境保全活動を進めていく、えびな環境市民会議（井上高保会長・64人24団体）では、今年5月、大谷の休耕田に約6000粒のケナフの種子をまき、生育に関する調査を含めた試験栽培を行っています。10月14日には「ケナフフォーラム」を開催し、ケナフを使った紙づくりや講演を行ったほか、今月の産業まつり（19日）でも、紙すき体験コーナーを設ける予定で、会のメンバーは「体験を通じて、一人でも多くの方に環境問題への意識を持ってもらいたい」と話しています。

このようにケナフは、環境にやさしい植物として期待されていますが、紙を作る場合、木材よりも割高なことで原料としてはまだ普及していないことや、生態系への影響が疑問視されるなど、実用化には超えなければならぬことも多く、時間がかかりそうです。しかし、現在の紙の原料にも限りがあります。今後ケナフが有効に利用されていけば、森林減少や地球温暖化のブレーキの一つとして、地球環境保全と改善に役立つことでしょう。